

山梨県の農林水産業の概要

特徴・取組

山梨県の総面積は4,465km²で、その約78%を森林が占め、周囲は急峻な山々に囲まれ、農地は総面積の約5%である。

気候は、夏と冬、1日のうちでも昼夜の気温較差が大きく、降水量は少なく日照時間が長い内陸性気候で、このような気候を生かした農業が展開されている。

山梨県の産業構造を見ると、全国と比較して第2次産業の割合が高い。特に製造業では、生産用機械や精密機器、飲食料品（ミネラルウォーターやワイン等）、地場産業である貴金属装身具の出荷額は国内トップクラスとなっている。

耕地面積23,500haのうち、田は7,800ha、畑は15,800haで、畑のうち樹園地が10,100ha（耕地面積の約43%）を占めている。

果樹を中心に、野菜、畜産、水稻、花きなど、様々な品目が生産されており、中でも生産額の最も大きい果樹は、もも、ぶどう、すももの収穫量が全国1位である。

また、果実の輸出がアジア地域を中心に増加し、平成30年度の果実輸出額は約9.3億円となっている。

山梨県では、新規就農者の育成に高い見識と能力を持ち、かつ十分な研修環境を提供できる農業者（アグリマスター）の指導の下で長期研修を実施する県独自の「就農定着支援制度」を設けている。実践的な栽培技術や農地の確保、地域における人間関係の形成などの新規就農希望者の共通課題の解決に取り組んでいる。

県内のぶどう生産は生食用が主であるが、「甲州」、「マスカット・ベリーA」等の品種はワイン醸造用としても栽培されている。この2品種は、ワインの国際的審査機関であるOIV※に登録され、甲州を原料としたワインは、国際的にも評価を高めている。

※ OIV：国際ぶどう・ぶどう酒機構（International Organisation of Vine and Wine）。

主な農林水産物

ぶどう

栽培の歴史は日本で最も古く、約1300年前からとも言われる。収穫量は全国の約1/4を占め、輸出も近年増加傾向。

（収穫量全国1位）



もも

ももの花が咲く春の甲府盆地はピンクの絨毯を広げたようである。収穫量は全国の約1/3を占め、輸出も近年増加傾向。

（収穫量全国1位）



すもも

大玉で高糖度の「貴陽（きよう）」が注目されている。収穫量は全国の約1/3を占める。

（収穫量全国1位）



おうとう

高級感漂う初夏の果物で、5月上旬から観光農園でもぎ取りが楽しめる。

（収穫量全国2位）



肉用牛

豊かな自然の中で肥育され、高品質の黒毛和種は、甲州牛としてブランド化されている。



米

峡北地域※では、南アルプスなど山々からの豊かな水と長い日照時間の恩恵を受けて生産されている。

※ 峡北地域：韮崎市・北杜市・甲斐市内のうち旧双葉町



スイートコーン

5月の平坦地でのハウス栽培から、8月の高冷地栽培まで長期にわたり出荷されている。

（収穫量全国5位）



クレソン

豊富な水を利用した栽培により、周年出荷されている。収穫量は全国の約37%を占める。

（収穫量全国1位）



にじます(養殖)

豊富で清澄な天然水を利用した淡水魚の養殖が行われている。

（収穫量全国3位）



洋ラン(鉢もの類)

長い日照時間や標高差を活かして栽培が行われ、各地に出荷されている。

（出荷量全国4位）



山梨県の農業（１）

- ・耕地面積は2万3,500ha、そのうち4割強（1万100ha）が樹園地である。
- ・総農家数は3万2,543戸、うち販売農家は1万7,020戸。
- ・認定農業者数は2,426経営体、うち216が法人。

耕地面積

区分	山梨県	全国	全国順位
耕地面積	23,500 ha	4,397,000 ha	43
田	7,800 ha	2,393,000 ha	44
畑	15,800 ha	2,004,000 ha	24
普通畑	4,840 ha	1,134,000 ha	36
樹園地	10,100 ha	273,100 ha	9
牧草地	857 ha	596,800 ha	19
参考) 総土地面積	446,527 ha	37,797,524 ha	32

出典：「令和元年耕地面積(7月15日現在)」、「令和元年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省 国土地理院)

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区分	山梨県	全国	全国順位
農業経営体数	17,970 経営体	1,377,266 経営体	37
法人経営	280 経営体	27,101 経営体	39
総農家数	32,543 戸	2,155,082 戸	32
販売農家	17,020 戸	1,329,591 戸	37
主業農家	3,891 戸	293,928 戸	30
参考) 世帯総数	330,976 世帯	53,448,685 世帯	41
集落営農数	6 集落営農	14,949 集落営農	44

出典：「2015年農林業センサス(平成27年2月1日現在)」、「平成27年国勢調査」(総務省統計局)、「集落営農実態調査(平成31年2月1日現在)」

荒廃農地面積

区分	山梨県	全国	全国順位
荒廃農地面積	6,791 ha	279,970 ha	16

出典：「平成30年の都道府県別の荒廃農地面積」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区分	山梨県	全国	全国順位
基幹的農業従事者数	24,157 人	1,753,764 人	30
男	13,456 人	1,004,716 人	31
女	10,701 人	749,048 人	30
65歳以上	17,032 人	1,132,072 人	33
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	70.5 %	64.6 %	-
認定農業者数	2,426 経営体	239,043 経営体	30
法人数	216 法人	24,965 法人	40
参考) 総人口数	834,930 人	127,094,745 人	41

出典：「2015年農林業センサス(平成27年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(平成31年3月末現在)」、「平成27年国勢調査」(総務省統計局)

担い手への農地の集積状況

区分	山梨県	全国	全国順位
担い手への集積面積	5,490 ha	2,485,707 ha	43
集積率	23.2 %	56.2 %	42

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(平成30年度版)」

注：農地中間管理機構を介さないものを含む。
平成31年3月末の数値である。

令和2年3月1日時点における最新の統計等の公表データを使用

山梨県の農業（2）

- ・農業産出額は953億円で、全国第34位。内訳は、果実が66%、野菜が12%、畜産が8%、米が7%となっている。
- ・農畜産物の生産状況は、ぶどう、もも、すもも及びクレソンが全国第1位、おうとうが2位。
- ・農業者等による生産関連事業は、観光農園の経営体数が630経営体、年間販売金額が33億8,100万円とともに全国第1位である。

農業産出額

区分	山梨県	全国	全国順位
農業産出額	953億円	91,283億円	34
米	63億円	17,513億円	44
麦類	0億円	414億円	33
雑穀	0億円	94億円	27
豆類	1億円	637億円	35
いも類	4億円	1,976億円	40
野菜	112億円	23,212億円	42
果実	629億円	8,406億円	5
花き	36億円	3,327億円	29
工芸農作物	1億円	1,786億円	42
その他作物	21億円	715億円	9
畜産	77億円	32,589億円	42
肉用牛	14億円	7,416億円	39
乳用牛	22億円	9,339億円	40
生乳	18億円	7,473億円	41
豚	10億円	6,104億円	41
鶏	30億円	8,999億円	40
鶏卵	16億円	4,848億円	39
ブロイラー	15億円	3,608億円	30
その他畜産物	1億円	731億円	33
加工農産物	8億円	615億円	14

出典：「平成30年生産農業所得統計」

注：1「全国」の値は、都道府県別に推計した農業産出額を合計した値であり、全国推計した農業総産出額とは一致しない。

2「麦類」、「その他作物」及び「ブロイラー」の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農畜産物の生産状況

区分	年次	山梨県	全国	全国順位
ぶどう	収穫量	H30 41,800 t	174,700 t	1
もも	収穫量	H30 39,400 t	113,200 t	1
すもも	収穫量	H30 7,820 t	23,100 t	1
クレソン	収穫量	H28 275 t	748 t	1
おうとう	収穫量	H30 1,080 t	18,100 t	2
洋ラン類（鉢もの類）	出荷量	H30 852 千鉢	14,500 千鉢	4
干し柿	生産量	H29 706 t	8,292 t	4
スイートコーン	収穫量	H30 8,480 t	217,600 t	5
キウイフルーツ	収穫量	H30 902 t	25,000 t	7
かき	収穫量	H30 7,440 t	208,000 t	10

出典：「果樹生産出荷統計」、「地域特産野菜生産状況」、「花き生産出荷統計」、「特産果樹生産動態等調査」、「野菜生産出荷統計」

注：「クレソン」の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区分	山梨県	全国	全国順位
農産物の加工	総額	36,667 百万円	941,262 百万円
	事業体数	430 事業体	27,920 事業体
農産物直売所	総額	17,243 百万円	1,079,020 百万円
	事業体数	910 事業体	23,940 事業体
観光農園	総額	3,381 百万円	40,159 百万円
	経営体数	630 経営体	6,590 経営体
農家民宿	総額	132 百万円	5,734 百万円
	経営体数	20 経営体	2,040 経営体
農家レストラン	総額	538 百万円	38,260 百万円
	事業体数	30 事業体	1,560 事業体

出典：「平成29年度6次産業化総合調査」

注：「農家民宿」及び「農家レストラン」の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

令和2年3月1日時点における最新の統計等の公表データを使用

山梨県の林業

- ・ 林業産出額は12億2,000万円で、全国第42位。内訳は、木材生産が約8割となっている。
- ・ 林産物の生産状況は、針葉樹が10万m³、広葉樹が3万8,000m³。
- ・ 製材工場数は24工場で、全国第44位。そのうち、国産材のみを素材とするのは22工場である。

林野面積

区分	山梨県	全国	全国順位
林野面積	349,204 ha	24,802,277 ha	26
国有林	6,455 ha	7,175,516 ha	45
民有林	342,749 ha	17,626,761 ha	22
人工林面積	153,541 ha	10,203,842 ha	29

出典：「2015年農林業センサス(平成27年2月1日現在)」「森林資源の現況」(平成29年3月31日現在)

林産物の生産状況

区分	山梨県	全国	全国順位
素材生産量	138 千m ³	21,640 千m ³	31
針葉樹	100 千m ³	19,462 千m ³	35
あかまつ・くろまつ	14 千m ³	628 千m ³	8
からまつ	26 千m ³	2,252 千m ³	7
広葉樹	38 千m ³	2,178 千m ³	15
竹炭	生産量 7 t	534 t	7
薪	生産量 2,235 層積m ³	76,660 層積m ³	11

出典：「平成30年木材統計」、「平成30年特用林産基礎資料」

注：「竹炭」の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

林業経営体数

区分	山梨県	全国	全国順位
林業経営体数	431 経営体	87,284 経営体	41
法人経営	72 経営体	5,599 経営体	32

出典：「2015年農林業センサス(平成27年2月1日現在)」

製材工場数

区分	山梨県	全国	全国順位
工場数	24 工場	4,582 工場	44
製材用素材の入荷があった工場数	24 工場	4,551 工場	44
国産材のみ	22 工場	3,521 工場	42
国産材と輸入材	1 工場	792 工場	45

出典：「平成30年木材統計」

林業産出額

区分	山梨県	全国	全国順位
林業産出額	12.2 億円	4,628.5 億円	42
木材生産	9.4 億円	2,278.7 億円	37
栽培きのご類生産	2.5 億円	2,256.6 億円	45

出典：「平成30年林業産出額」

注：「全国」の値は、都道府県別に推計した林業産出額を合計した値であり、全国推計した林業産出額とは一致しない。

令和2年3月1日時点における最新の統計等の公表データを使用

山 梨 県 の 漁 業

- ・ 漁業経営体数は、内水面漁業で72経営体あり、全国第18位。
- ・ 水産物の生産状況は、内水面養殖業収穫量が951 t で、全国第9位。そのうち、にじますが699 t で3位。

漁業経営体数

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
内水面漁業経営体数	72 経営体	4,772 経営体	18

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
内水面漁業・養殖業生産量	x t	56,806 t	-
内水面養殖業収穫量	951 t	29,849 t	9
にじます	699 t	4,732 t	3

出典：「平成30年漁業・養殖業生産統計」

注：1 順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

2 東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所事故の影響を受けた区域において、同事故の影響により出荷制限又出荷自粛の措置がとられたものについては、生産量に含めていない。

醸造用ぶどうの生産拡大と「甲州ワイン」の増産

山梨県の「日本ワイン」の生産量・出荷量は、全国第1位で、山梨県産ワインを代表する「甲州ワイン」の国際的評価は年々高まっている。醸造量も増えており、原料である「甲州」の生産量が追いつかないほど好評となっている。

山梨県は、ワイン産地確立推進計画を策定し「甲州」について、ぶどう畑の維持拡大、栽培者の育成等の取組を強化している。2025年度までに1,000トンの増産を目標としている。

目標の達成に向け、ワイナリーとの長期契約を行った「甲州」栽培農家に対する苗木の購入やぶどう棚の設置等への補助、新たに「甲州」の生産を目指す者への技術指導を実施している。



「甲州ワイン」の原料となる「甲州」

「峡東地域の扇状地に適応した果樹農業システム」を世界農業遺産に申請中

峡東地域は、日本のブドウ栽培発祥の地とされ、ブドウ「甲州」は、平安時代にはすでに栽培されていたとも言われている。また、モモ、スモモ、カキなども古くから栽培され、江戸時代にはすでに果樹の産地として知られていた。扇状地の傾斜地において、それぞれの土地に適応するために、多様な果樹を栽培するとともに、独自の技術が考案された。中でも約400年前に考案されたブドウの甲州式棚と疎植・大木仕立てを組み合わせた栽培は、降水量の多い日本の気候に適応するために開発された技術で、現在日本各地に普及している。また、果樹園に自生する植物を利用した草生栽培は、土壌の流亡防止や有機物の補給だけでなく、多様な生物の生息に大きく貢献している。果樹農業は、枯露（ころ）柿やワイン醸造などの果実加工、約120年前に始まったとされる観光果実園などとともに発展し、多様な文化・祭事とともに世界に誇る特色ある地域を形成している。

峡東地域は、平成29年3月に「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」として日本農業遺産に認定されている。その後、平成31年2月に世界農業遺産への申請承認を受け、令和元年10月8日に「Fruit Cultivation System in Kyoutou region, Yamanashi」※としてFAOへ世界農業遺産への申請を行い、現在審査中である。

※扇状地の複雑な環境条件において、ブドウやモモなど多品目多品種の果樹を栽培し、高品質な果実の生産を維持するとともに、果実加工や農業の観光利用などを組み合わせた複合的果樹システム



モモやスモモの花が咲き乱れる春の風景